

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度

本事業の上位目標は「1. ラオス北部地方の障害者の社会進出を促す。2. フアパン県において障害者の新たな就労ロールモデルをつくり、行政と連携しながら北部の障害者就労を活性化する。」であり、2015年10月に事業が開始されて以来、ラオス障害者協会や地元村長達との連携の下で研修生を募り、ラオス人専門家及び日本人専門家の指導の下、1年間で42名の継続の研修生、そして新規の83名を加えた合計125名の障害当事者の職業訓練を行い、2017年9月末現在18名が就労、起業を達成する為にOJTによる訓練を重ねている。詳細として、当事業では1年間に計4回の造園・園芸研修を開催し、第1回20名・第2回以降各回10名、合計で50名、計4回の美容研修を開催し、第1回8名・第2回以降各回10名、合計で38名、計4回の製菓研修を開催し、第1回7名・第2回以降各回10名、合計で37名、総計125名のフアパン県を中心とした近隣県も含めた障害者が研修に参加し当会の仮想就労の場でもあるビエンサイの就労支援センターにおいて就労・職業訓練を行った。

当会のOJTを実施する技能ワークショップ（仮想店舗）は「**就労意欲の高まった障害者が即戦力となるような社会のニーズに即した仮想店舗を使った「技能訓練」を経て、起業や就労へと進めるよう必要な支援が提供される**」場であり、この目的に鑑みて、フアパン県ビエンサイ村に当会のOJTの場である就労支援センターを開設、実際にビジネスを行いながら、就労の意義、高品質のサービスやモノを提供、販売することによってコミュニティとつながり、コミュニティから評価され、障害当事者の自信を醸成するための就労現場として2年目を終えた。改めてこのメソッドの重要性を感じており、職業訓練や技能訓練のみでたとえ手に職を得ても、実際のその宝である技能をビジネスに生かすためのノウハウも必要となる。本会のフアパンでの就労支援ワークショップの場でビジネスを学び、顧客サービスを学び、顧客のニーズを肌で感じ、ビジネスに必要な基礎知識を学び、自分が起業するために必要な準備をより正確にイメージできるという目的のために事業に関わる全ての関係者が1年目に引き続いて2年目も支援を行ってきた。開設当初、この地が首都ビエンチャンとは異なり、地方都市のさらに小さな村であることから、障害者就労のロールモデルが生まれるには大きな経済的地理的ハンデがあったにも関わらず、ビエンサイ村やサムヌア県都の支援を受けて、また日本の専門家の起業・就職に必要なあらゆる支援を行いながら、起業をイメージできるよう丁寧に指導した。

当会就労支援センターでは、第2期目として、基礎から応用となる各職業訓練のカリキュラム過程を日々のOJTにおいて反復学習をする形を最重視し、当会就労支援センターにおいて、研修生の更なる技能習得のための環境をしっかりと整えた。また、同時に昨年からの引き続き、技能研修の際に各研修生の就労に向けた具体的な希望を聞き、各自の就職・起業活動に対して当センターの指導スタッフが丁寧なアドバイスを行った。また、当団体の日本人現地プロジェ

	クトマネージャーがラオス人スタッフ及び研修生と共に近隣の公共施設、商店や飲食店などを回り、直接マーケティング方法や販売促進方法等の指導も日々の業務で実施、更に市場や商店の軒先を借りて研修生が直接製菓の販売をして製菓販売の実体験を実施したり、センター内の美容研修施設で近隣の方々に洗髪や染髪をして日々技術向上に励み、当事業で研修を受けた研修生の多くが就職・起業の道へと確実に進めるようあらゆる既存のリソースを駆使して当事業の上位目標を達成すべく 1 年間努力し、一定の就労の成果を上げた。
(2) 事業内容	2016年10月事業開始 ①造園・園芸研修 (年4回) 造園日本人専門家2回・園芸日本人専門家2回 ②製菓研修 (年4回) 製菓日本人専門家2回・製菓ラオス人専門家2回 ③美容研修 (年4回) 美容日本人専門家2回・美容ラオス人専門家2回 ビエンチャンにてフォローアップビジネス研修 指導員候補生3名に向けたビエンチャンでの集中訓練 (初級) 1回 ④北部近隣県への障害者就労事情調査 (年2回) ⑤就労促進セミナー@ビエンサイ郡 (1回)) フアパン県知事はじめ役所関係者、ビエンサイ郡長、地域における政府関係者、民間企業、教育関係者、地元有力者、村長、親、LDPA 支部など35名を対象に障害者の就労促進と障害者のエンパワメントについてテーマのセミナーを実施 (9月) ⑥地域ミーティング (村レベル) の実施 (障害者が起業・就労を行っている地域・村への村民理解の醸成) 100人サポーターを作る。 ビエンサイ郡ビエンサイ村では日本のODAで実施されている当会の障害者就労支援センターは、大変よく知られる存在となり、村人が頻繁に集まる地域の拠点となっている。ビエンサイ郡の役人も週に数回当会の事業を視察に来て、センターで共に事業を円滑に進めるよう便宜を図ってくれている。ラオス日本桜友好公園は日本とラオスの外交樹立60周年を記念して開設された2国間の友好のシンボルの公園でもあり、そこに植えられている300本を超える桜が当会の障害者により丁寧に管理されていることが、ビエンサイ郡、およびフアパン県知事にもよく理解されており、行政当局、村人からも当会の就労支援センターの活動の意義がよく理解され、また好意的に受け入れられている。申請書にも書いたが、1年事業が終わり、周辺の地域住民が、最も身近な支援者となり障害者就労の理解者として、また顧客として当事業に貢献していることがそのまま実現した。地域村の住民100人サポーター制度が出来上がった。障害のある人、ない人、若者、子供、高齢者すべてのビエンサイ村の住人が、桜公園と当会ワークショップを理解、障害者就労支援のサポーターとして協力してくれており、村人を中心としたADDPフアパン就労支援ワークショップのサポーターの総数は128名となり、十分に支援してくれる体制が取れている。引き続き、障

害者就労の PR を率先して行ってもらえるよう、また美容やクッキー、造園や園芸の障害者就労の技能訓練の後の障害者の経済自立のサポーターとなってもらえるように更に最終年 3 年目も積極的に働きかける。

2016 年 11 月

・第 1 回園芸研修開催 11 月 9 日～11 日

研修生 15 名 日本人専門家 2 名

美容研修と実施日が若干重なったため、研修希望者へ受講希望のアンケートを実施し、研修者を振り分けた。今年度から中級へのステップアップとなり、より実践的な園芸手法を習得した。

研修生はより高度な技術を習得出来る機会に期待と不安を抱きながら専門家と一緒に園芸研修用花壇等に苗木や球根や花のタネを植え、種類による植え方の違いを学び、育てていく段階での注意点を専門家から熱心に学んだ。本ビジネス栽培技能（中級）は、障害者の収入向上につながる有望な植物、ラオスでガーデニング種として人気のある苗木をビエンチャンでも調査、購入、種類別に、たね木の入手方法と繁殖法、栽培と管理、商品としての仕立て方、配色の仕方、売る時期と価格の目安、荷造りなど、どのように栽培し出荷するかビジネス技能を一貫して学んだ。

＊土壌改良技能、最新の繁殖技術の習得（中級）

日ラオス友好公園の土壌改良技能も造園のチームと共に習得。植物により成育に適した土壌改良が必要であり、実際の桜公園での桜の成育を見ながら肥料の調整などを学習。実生、挿木、接木、取木、株分けの実際技術を反復し学習した。

＊ケミカル・コントロールの技能習得（中級）

開花促進、開花抑制など、マニュアルを確認しながら高度な害虫駆除の方法を学んだ。また近隣の住民たちが ADDP サンプルガーデンにとっても興味を抱き、研修生の研修の一環で、近隣住居のガーデニング作りを専門家と行った（5 軒）。

・第 1 回美容研修開催 11 月 7 日～11 日

研修生 10 名 日本人専門家 1 名・ラオス人専門家 1 名

美容研修希望者も参加し、日本人専門家・ラオス人専門家による合同美容研修を実施した。美容に興味の有る研修希望者は、洗髪技術の日本式とラオ式の違いを実技演習により体感し、双方の良い部分を併せ持つ洗髪技術の習得に向け熱心に研修を受けていた。

既に研修を受けている現研修生達も、自分の技術の再確認をしながら研修希望者と一体となり研修を受けていた。近隣の住民への広報を行い、50 人のカット、ブロー、シャンプーのデモを行った。実際に OJT 期間でも村人がワークショップに訪れ美容の施術を求めることも増えてきており、引き続き OJT の形でも顧客サービスを学んでいく。

・第 1 回造園研修開催 11 月 29 日～12 月 4 日

研修生 15 名 日本人専門家 (1 名)

日ラオス友好桜公園造園の庭作り中級講座を実施。ラオス日本外交樹立 60 周年記念に植樹された桜の木のメンテナンスも含む友好公園広場における造園技術のデザインと苗木のメンテナンス技能習得 (中級) を中心に行った。桜の成育は順調であり、日々障害者の桜守が成育レポートを提出、日本人専門家に情報をフィードバックしている。土壌改良も大規模に行い、ラオス人研修生が自分で考え、自分で行動する自発性も養われてきた。今回も、造園に興味を持つ研修希望者も参加し、桜育成手法を主とした園芸技術を学んだ。ラオスで一般的な樹木とは異なるデリケートな育成方法に戸惑いを感じながらも、日本式の樹木は愛情を持って育成する事を理解しようとしている努力が見て取れた。また、日ラオス友好公園は日本・ラオスの友好のシンボリックな公園であることから近隣の住民の憩いの場所のみならず、見学に来る観光客が少しずつ増えており、桜のメンテナンスを障害当事者が行っているところで日本の支援の「多様性」と「顔の見える障害者支援」ということで、観光客 (中国、韓国) からプロジェクトの内容をインタビューされることもあった。

2016 年 12 月

・ラオス首相の公園視察 12 月 23 日

ラオス北部観光資源の視察で公園にラオスのトンルアン首相がビエンサイを訪問。当会の造園研修のプロジェクトサイトである日ラオス友好公園も訪問され、桜の成育を視察された。障害を持つ研修生を直接励ましていただいた。大変光栄なことであった。首相も注目する将来のファパン県の観光立県の可能性とその存在意義を研修生も大いに実感し、自信を持ちながら自立へ向けた希望も大きくなり、それぞれが将来独立するためのビジョンを考えるようになったのは大きな刺激であった。首相も桜クッキー (ビエンサイ製菓チームが発案したクッキー) を召し上がり、喜んでくださった。

2017 年 1 月

・第 1 回製菓研修開催 1 月 16 日～22 日

研修生 5 名 ラオス人専門家 2 名

今年度から中級へのステップアップとなり、ラオス人専門家 2 名によるより細やかな研修で、各研修生の技術力アップをする研修を実施した。さらにレシピが増え、全 6 種類となった。サムヌアのカフェやミニマート、レストランでも販売実績が増えてきた (10 軒)。

2017 年 2 月

・第 2 回造園・第 2 回園芸研修開催 2 月 5 日～10 日

研修生 20 名 日本人専門家 造園 2 名 園芸 2 名

今回は研修希望者も多く、造園と園芸は苗木、桜両方ともに成育の見守りやメンテナンスの指導の中で内容的にも似かよった部分が多いため、敢えて研修希望者を振り分けることはせず、造園と園芸の研修を同時開催とし、午前と午後を分けて全員が同じ研修へ参加し

た。特に交通校である、障害者に向けた園芸療法（中級）などを丁寧に指導、園芸・造園を通じた障害者のエンパワメント及びカウンセリング実施のための中級技能講座も実施。特に研修では、障がい者の収入向上につながる有望な植物、苗木を種類別に、たね木の入手方法と繁殖法、栽培と管理、商品としての仕立て方、売る時期と価格の目安、荷造りなど、どのように栽培し出荷するかビジネス技能を一貫して学び、造園の研修生にとっても有益な知識であった（中級 2 日間）。また土壌改良技能、最新の繁殖技術や実生、挿木、接木、取木、株分けの実際技術も指導を受けた。開花促進、開花抑制など、テクニカルな商品価値を高めるケミカル・コントロール（化学処理）の理論は難しい題材であったが、成功するビジネスモデルであり、熱心に質問や議論が深まった。

1-3 OJT 訓練期間（当会ワークショップ及び借り上げ畑）

（日本人専門家による集中研修以外の通常研修期間）

当会プロジェクトマネージャーによる OJT 指導も通年行い、日々の苗木の世話やビジネスの視点から商品としての苗木、植物の育成及び販売について学んだ。また、サムヌアだけでなく、ルアンパバーンなどの商業都市・施設に向けたガーデニング苗木のセールスの可能性などもビジネスリサーチを開始した（北部障がい者事情調査の一環）。顧客に求められるような苗木の育成方法も学んだ。ADDP 仮想ガーデンを造園（サンプルガーデン）も当会の研修生が簡単にデザインし近隣の住民にガーデニングのデザインやアイデアを提供。また、苗木販売の仮想ショップとしての当会ワークショップにて、実際に自生し育成した苗木を販売するというサービスも始めている。すでに 79 株販売実績を持つ。

2017 年 3 月

・本邦研修 3 月 29 日～4 月 4 日

研修員 3 名（フアパン県カウンターパート）

フアパン県知事を含む県カウンターパートの各担当者を日本へ招聘し、京都での造園研修フォローアップ研修、日本の障害者福祉施設等の見学および日本の障害者福祉の現状把握、議員会館での日ラオス議員連盟会長表敬、及びビエンサイの日ラオス友好公園での桜の植樹にご協力いただいた日本の草の根のラオスサポーターとの懇談、意見交換会などを行った。また、園研修の一環としての日本の桜の視察を実施した。フアパン県知事が熱心に障害者施設見学の際にフアパン県が障害者就労や障害者理解がまだまだ進んでいないことを憂い、ラオスに帰国後、すぐにフアパン県職員に向けた障害者理解と障害者就労促進に向けた勉強会を行うことを約束していた。県トップが障害者就労に大いに理解を持ち、リーダーシップを発揮してもらえることで、地域やコミュニティーの障害者の差別や偏見をなくすことができる一端となる。これからも行政などにも働きかけていき、障害者就労への理解を求めている。

2017年4月

・第2回製菓研修 4月27日～5月3日

研修生5名 日本人専門家1名

日本人専門家による今年度初の製菓研修を実施。

今年度は中級研修にステップアップしており、初級でのクッキー作成経験を活かし、同じ様なステップで作成出来るケーキやパンの作成技術を習得した。指導員候補生へは初級で技術移譲されたクッキー作りについて専門家による技術移譲状態の確認および指導員としての技術を習得しているかの評価を実施した。

・北部障害者状況調査 4月28日～29日

フアパン県南部に位置するサムタイで障害者状況調査を実施。

この場所へはサムヌアからベトナムへの国境へ向かう山道から南へ向かう道が有り、その道を南下した最終到着地点がサムタイとなるため交通の便が非常に悪く、サムヌアからの一日一便のバスが有る程度の田舎で有った。

当然に障害者協会等の公共施設は無く、病院と学校が1箇所ずつ有ったが建物は老朽化しており、現地の方に話を聞くと、ちゃんとした教育を受けたい若者はサムヌアやビエンチャンの学校へ行く事が多く、病院はベトナムの病院へ行く事が多いとの事でした。

調査した時はサムタイから以南へ続く道を整備していましたが、山を越えた南側のボリカムサイ県へ続く道を整備しているらしいです。しかし、整備予定の山にはUX0調査および撤去が手付かずの場所が多く、整備工事は難航しているとの事です。

その様な場所ですから、当然に障害者情報は多いと思っていましたが、障害者の情報を調査し取り纏める機関が無く人づてに聴き込む以外方法は無く、2日間の調査日程では障害者情報を集める事は不可能な状態でしたので、改めて調査日程を組む必要が有ると感じた。

2017年5月

・第2回美容研修 5月24日～31日

研修生5名 ラオス人専門家1名

今まで美容研修をお願いしていたラオス人専門家の方が、結婚し出産を控えているとの理由により今年度からの研修協力は不可能と言う事で、ビエンサイの美容院を調査し、客入りが一番多くプロジェクトの主旨に賛同してくれるラオス人専門家を探した。

運良く、ビエンサイでの結婚式用ヘアメイク等をやっており、一番人気の有る美容院のオーナーがプロジェクトの主旨に賛同し専門家としての協力を快諾してくれた。今までの専門家とは多少違うスタイルでの研修となるが、研修生にとってより現地のニーズを把握している専門家から異なるスタイルの美容を学ぶ事が出来る良い機会だと説明し新しいラオス人専門家に初級で習得した技術の確認をしてもらい、技術力の不足部分を補い、新しい技術移譲への研修を実施。催事用ヘアアレンジメント、メイクなど高度な技術を学んだ。

2017年6月

・第1回製菓ビエンチャン研修 6月12日～18日

指導員候補生2名

指導員候補生がビエンチャンクッキー工房へ研修に行き、クッキー工房としての活動内容を身を持って体験し、自分達が将来独立する場合の指標を学んだ。

2017年7月

・北部障害者状況調査 7月24日～28日

4月に実施した調査の経験を活かし、今回は労働社会福祉省フアパン支庁の職員に同行してもらい、訪問先への事前連絡等の調査協力をしていただいた。今回はフアパン県北西部の地域を重点的に調査した。シェンクワン県やルアンパバーン県との県境の村へ行った時には、雨季に入ったため降雨による崖崩れは地滑り等で通行困難な道も多々あったが、地元の方々の協力もあり無事に調査が出来た。この地域も先のサムタイ同様に UXO 調査および撤去が完了していない場所が多く、道路等のインフラ整備が難航しているとの事だった。そんな場所であるから UXO 被害による四肢障害者が多く居ましたが、その殆どが高齢者であった。若い世代は危ない場所には近寄らないらしく、若い世代の障害者は知的障害者が多く見受けられた。14名の障害者インタビューを実施。その他、年齢を問わず UXO 被害による視覚障害者や聴覚障害者も居た。

2017年8月

・第3回製菓研修 8月8日～11日

研修生5名 日本人専門家1名

今回の研修は中級技術移譲の成果確認と、次年度の上級技術移譲へ向けての課題確認に重点を置き、その旨を日本人専門家に伝えて研修を実施してもらった。前回技術移譲してもらったケーキやパンの作成については、日々の OJT 訓練もあり技術的には大幅に向上しているとのフィードバックをもらった。商品として販売可能か否かの評価は、更に多少製品の製造の質の安定を訓練した後、上級技術移譲のプログラムを検討し、十分に技能的には問題ないとの評価判断を得た。

2017年9月

・第1回美容及び園芸ビエンチャン研修 9月8日～15日

指導員候補生6名

指導員候補生が、製菓同様に昨年7月にN連プロジェクトが終了し独立した ADDP ビューティーサロンへ行き、実際の業務として稼働しているサロン業務を体験した。また、この時期にビエンチャンでファッションウィークが開催されており、ヘアメイクやメイクアップ等の美容部門をビューティーサロンスタッフが担当する事となり、フアパン指導員候補生も研修を兼ねてお手伝いをさせてもらった。通常のサロン業務とは全く違う環境で、ファッションショーのプロ

	フェッショナルなモデルさんのメイク、ヘアアレンジを時間内に仕上げるという時間との闘いのプロの現場では、次に何をすれば良いかと言う常に先を考えた効率も計算した行動をしなければならず、指導員候補生には非常に刺激になった。プロのファッション業界の専門家に交じり、インクルーシブなバックステージで、お互い学び合い、啓発し合い、素晴らしい実際のビジネス訓練となった。ショーのオーガナイザーからもフアパンからわざわざやってきた指導員候補生の技能の高さに対し、賞賛の言葉をお褒めの言葉を得て、来年度にもつながる技能を披露できた。また、ファッションウィークでは園芸専門家にも協力を得て出演してもらったが、園芸専門家にはビエンチャンにおける苗木屋のリサーチ同行やホテルやレストランでみられる園芸のアレンジメントなどを実際にビエンチャンのショップオーナーと共にビジネスの話をした。ビジネス販売の可能性と園芸ガーデニングのアレンジ技能の講義なども行ってもらった。ビエンチャンではガーデニング文化がすでに始まっており、苗木育成やガーデニングの技能を磨けばビジネスにつながる素地は充分にあると研修生も大いに刺激となった。 ・ 第 4 回製菓研修 9 月 1 9 日～ 2 4 日 研修生 5 名 ラオス人専門家 2 名 ビエンチャンのクッキー工房からラオス人専門家を招き、1 月の研修および 6 月のビエンチャン指導員候補生研修のおさらいと上級技術移譲へ向けた方向性の確認をしてもらった。 専門家も障害者で有るため、障害の程度により作業の得手不得手があるのを十分に理解した上での指導方法は、ピアサポートならではの合理的配慮の提供であり、このようなピアな立場のラオス人専門家からの学びは、研修生の将来の為には非常に有意義で有ると感じた。
(3) 達成された効果	造園・園芸、製菓、美容のそれぞれのプログラムで中級の技術を学び、OJT を通じて研修生自身が自立する為に今後どの技術を習得したいかをより現実的に考えるようになった。 今年次は 4 2 名の研修生に中級の修了証明書の発行。指導員候補生全員の指導技能力（指導法が分かりやすいか、障害に配慮しているか等総合的指導力）を研修生にアンケート調査を行い 1 0 0 点満点で 8 5 点以上の評価を得た。 2 年目ということで 1 年目に目指した基礎カリキュラムの完全習得と共に応用力のレベルアップをはかり、研修生の個々の技術レベルは 1 年目よりはるかに向上した。 また、今年度より指導員候補生の育成を実施しているが、ビエンチャンでの研修を実施しクッキー工房やビューティーサロンでの実際の業務を習得し、それぞれの持てる技能を OJT により他の研修生へ技術移譲している。

	また、新規の OJT 研修生の募集はなかなか人が集まらないことが予測されるが、引き続き、LDPA 支部と連携しながら、また他のリソース（シクードや他の外国 NGO 事業との連携）ともつながりながら、必要としている障害者にしっかりと当会の活動が届くように広報にも力を入れる。また達成された効果として、研修生自身が複数の技術を同時に習得出来る環境にもなっており、例えば「造園と製菓」と言う様に数種の技術を混合させた自立の可能性もあるため、研修生は一つのプログラムに捉われる事無く、どのプログラムが自分に向いているか、また楽しく技術習得出来るか等を自身で考え将来への希望を持って日々 OJT で技術向上のために邁進していることは、可能性を広げることができるため本事業の各部門が連携しながら事業を進めている。 以下は達成された効果である。 ① 造園・園芸研修 2 年目の成果 販売苗木数 79 本、ビジネス受注数 4 件及び一般のラオス人顧客数 30 人（前年比 50%増） ② 製菓プログラム部門 （クッキー販売パッケージ数 3,000 PACKAGE）前年比 60%増 想定顧客：フアパン県並びに近隣県 （ラオス北部）ラオス企業数 10 社確保（企業等により平均最低 3 万円程度の売上/月） 提携中小ミニマート数、観光業ホテル及びレストラン数（前年比 50%増） ③ 美容部門 （美容院、カット、カラー、ブロー、シャンプー等） 想定顧客：近隣一般のラオス人、在留外国人、年間の顧客延べ数 100 名（前年比 25%増+）
(4) 持続発展性	事業当初から特に製菓 OJT では、日々技術習得をしている研修生を指導員候補生として更なる技術向上を行い、指導員としての資質習得に向け支援およびサポートを継続しており、フアパン県やフアパン県の関係省庁もサポートを約束してくれている。サムヌアで製菓販売に協力してくれている飲食店が数店舗では有るが今後の店舗展開に意欲を示しており、パンや製菓を扱いたいとの事で、研修生が習得した技術を店舗展開に生かして行きたいとの要望も有り、OJT で技術を習得した研修生の就労の場が増える可能性も出ている。フアパン県だけをターゲットにしていると制限と限界もあるためにフアパン県に隣接したルアンパバーン県やシェンクワン県もターゲット県に含みながら、またフアパン県の全面的な支援も確約してもらっていることから、今後観光県としてフアパン県が大きく発展する鍵は国際空港の完成と観光業（ビエンサイや南の温泉が出る地域の観光インフラの整備）の発展が約束されている今、その観光業の発展に当会の障害者就労事業がうまく連動することが持続発展のか

ぎと考えるためにいろいろなリソースと当会の事業を今後も繋げていくことが課題となっている。フアパン県としては2018年—2019年に国際空港が開港されることを予定しており、そうなることで海外（中国、ベトナム近隣国の観光客）から多数の旅行者の数も見込んでいる。桜公園の横のカイソン・ミュージアムもオープンに向けて急ピッチで工事が進んでおり、ビエンサイ村の桜公園や洞窟はフアパン県内で最大の観光客を呼びこめる観光地として期待されている。ミュージアムの中の当会の製菓チームのショップを出させてもらう約束は既に知事と確約していることから、障がい者が製造する「桜クッキー」はお土産品の一つとして必ずヒット商品となる。そのため空港開港時期が本来の予定から大幅に遅れていることが想定外の出来事ではあるが、必ずこの地の日ラオス友好桜公園やお土産クッキーが日本の専門家の支援により、障がい者の手で桜が育ち、技能訓練を経た製菓パティシエとなったラオスの障害者が収入向上のため作るパンやお菓子が土産の商品として観光資源の場で売られることはそれを考えただけでも大きく持続可能性は期待できる。ADDPはその空港開港の日まで、フアパン県と共に技能訓練からソーシャルビジネスへの移行支援を行っていきたいと考えている。また、本事業の持続継続性の担保は、フアパン県内で技能訓練3業種それぞれにラオス人の技能訓練指導員が養成されることが重要であり、その現在各業種で指導員候補が生まれているが、その候補生がしっかりモチベーションを保ち訓練を継続し、今後の将来の障害を持つフアパン県の技能訓練研修生にしっかりと技能を継承するべく続けて研修を受けられるような体制を3年目の最終年でしっかりと築く。3年を終えて技能及び経済的にも自立発展を遂げた当会ワークショップの指導員候補生が、しっかりとフアパン県に根付き、新規研修生を受け入れることが可能になるために、最終年も特にカウターパートであるフアパン県の理解と協力を得つつ、県に働きかける。また、フアパン県で、ラオス北部を牽引するような障害当事者の就労成功のロールモデルを作り、ラオスの障害者就労機会が都市部と地方で格差なく平等に生まれるよう、障害者就労起業促進セミナーなどの開催を通じて、フアパン県の行政と連携しつつ、国の施策につながるよう引き続き努力する。